

【山のとっぺんに暮らす牛たちと出会ったときに見せた子ども達の笑顔。】

それぞれの車で、牛・山地酪農などについて雑談しながら鈴木牧場へ。

到着後しばらくすると牛たちが集まって来た。子どもたちの声(^_^)「ひゃ〜牛、牛、牛が来た〜。」

ほとんどの子どもが、牛を間近で見たことが無いとのこと、伸び伸びとおおらかで温かな暮らしをもつ牛たちを体感してもらったと思います。



鈴木牧場さんの長男：雄大さんに挨拶していると、牛たちが集まって来た(*^^)でもまだ近寄れない(^.^)。

【本日のミッション：山を豊かな牧草地にするために日本芝の種団子をつくり牛に食べてもらう。】

日本芝は、根が深く山肌を守りそして牛の大好物なのだそう。

芝はイネ科の植物で、この時期に穂を実らせる。けれど芝の種はモミが硬くそのまま撒いても発芽は難しいとのこと。牛の体内を通り、栄養ともなる糞と共に大地にかえして芝の発芽を促そうという試み(^_^)。

この山を草原にするために芝を増やす方法は他にもあるが、子ども達もたのしく、牛も喜び、芝の芽吹きも期待できる方法として、芝の種団子をつくって牛におやつとして食べてもらうことを体験させてもらいました!(^)!。



芝の穂を集め種を取る、小麦粉と塩と水！こねるこねる！ 穀物クッキーの生地のように(^.^)美味しそう♡



山地酪農は通常人が牛に餌や水を与えることはない。

(^-^)人間からの初のおやつ！匂いを嗅ぎ口に入れ吟味する牛たち。

食べる牛と興味を示さない牛・・・、塩分を強め、最後には多くの牛がすごい勢いで食べた(^◇^)食べた。何より、子どもと牛の距離がグッと縮まった\(^o^)/。

【午後は自由行動】

スケッチをしてみたり、探検に出かけたり、雄大さんについて行ったり、牧場犬と遊んだり、、、(*^^)v。誰と遊ぶのか？よりも、何をしてみようかな？が俄然優先されていて、自然にメンバーが変わっていく。気持ちのいい行動がみられました。



牧場犬タイザンは大人気



スケッチ、場所も自分で選んで黙々と



獲物を探しに。



いつの間にか裸足。



頂上から「やっほ〜」。

地肌がむき出しとなっている地面が目立った昨年に比べ、鈴木ファミリーや牛の営みで山地にやや豊かな表情を見ることができました。ここで身に着けてほしいことはたくさんあります。しかし、そういった大人の願いに焦点がすり替わらないように気を付けたいと思います。自分の想いに任せて過ごす中で、いつか「本当に大切なことは何か？」といった判断を要する時に、身を通した経験として役立つことを、心から願いたいと改めて思いました。

森劇スタッフ振り返り